

相模湾で採集されたシサンゴカクレエビ

奥野 淳 兒

Junji OKUNO: Record of a Pontoniine Shrimp,
Palaemonella rotumana (BORRADAILE, 1898)
from Sagami Bay, Central Japan

Summary

A free-living pontoniine shrimp, *Palaemonella rotumana* (BORRADAILE, 1898) is recorded based on the single specimen collected from Kawana Harbor, the eastern coast of Izu Peninsula, Sagami Bay, Japan. This specimen reveals that the first record of *P. rotumana* from Honshu, mainland of Japan and the range extension of its distribution to Sagami Bay.

はじめに

テナガエビ科カクレエビ亜科のシサンゴカクレエビ *Palaemonella rotumana* は、BORRADAILE (1898) によりフィジー諸島ロトゥマナ島産の標本に基づいて記載され、その後インド・太平洋各地から報告のある、同地域では普通にみられる浅海性のエビである (BRUCE, 1970; 1975)。本種は潮間帯から潮下帯までの岩礁・サンゴ礁で自由生活をする種で、わが国における本種の記録は琉球列島からのみであったが (亀崎ら, 1988)、伊豆半島におけるエビ類相調査中に伊東市川奈港から本種が1個体採集された。本個体は本種の本州初記録であると同時に新北限記録となるため、以下に報告する。なお、供試標本は国立科学博物館甲殻類資料 (NSMT-Cr) として登録・保管されている。また、文中の CL は頭胸甲長を表す。

種の記録

シサンゴカクレエビ

Palaemonella rotumana (BORRADAILE, 1898)
(Figs. 1-2)

供試標本。— 雌1個体 (NSMT-Cr 1720, 4.3mm CL), 34° 57.1' N, 139° 08.3' E, 静岡県伊東市川

奈港, 水深 1 m, 1992年 8月17日, 奥野淳兒採集。

備考。— 供試標本の標徴ならびに計数形質は以下の通りである: 額角上縁歯数7 (うち後方の1歯は頭胸甲胃上) (Fig. 2a); 額角下縁歯数2 (Fig. 2a); 額角長は頭胸甲長に等しい; 眼上棘を欠くが、痕跡的な眼上小突起がある (Fig. 2a); 触角鱗の外縁末端棘は著しく薄板を越す; 第1触角柄部外鞭は二分する; 大顎には2節に分かれた触鬚がある (Fig. 2b); 第2歩脚長節の末端直前の下縁によく発達した1棘を備える (Fig. 2c); 同脚腕節の末端上縁に顕著な1棘を有する (Fig. 2c)。

上記の形質は BORRADAILE (1898) による本種 の原記載 (*Periclimenes rotumanus* として), KE MP (1922) の記載と図 (*Palaemonella vestigialis* として) および CHACE & BRUCE (1993) の記載に一致する。また、生時の体色は一樣に透明で、体表面に顕著な模様はなく、第2歩脚の指節には緑褐色の横帯を有することで (Fig. 1), BRUCE (1975) による本種の体色に関する記載に一致する。

本種の分布の中心は熱帯域であり、従来インド洋西部 (アフリカ東部沿岸)、紅海からハワイまでのインド・太平洋、ならびに地中海東部から知られている (BRUCE, 1970)。なお、本報告によって本種の分布は相模湾まで拡張された。

インド・西太平洋熱帯ならびに亜熱帯産カクレエビ類の普通種はその多くが伊豆半島にも多産する (SUZUKI & HAYASHI, 1977; 毎原・鈴木, 1993; 奥野, 1993)。本報告で調査された標本は1個体のみだが、シサンゴカクレエビも今後の調査により相模湾や駿河湾から多数の追加標本が得られる可能性は高い。なお、この度の標本は夜間、川奈港内の防波堤上から壁面を柄の長いタモ網でしごいていた際に採集されたものである。

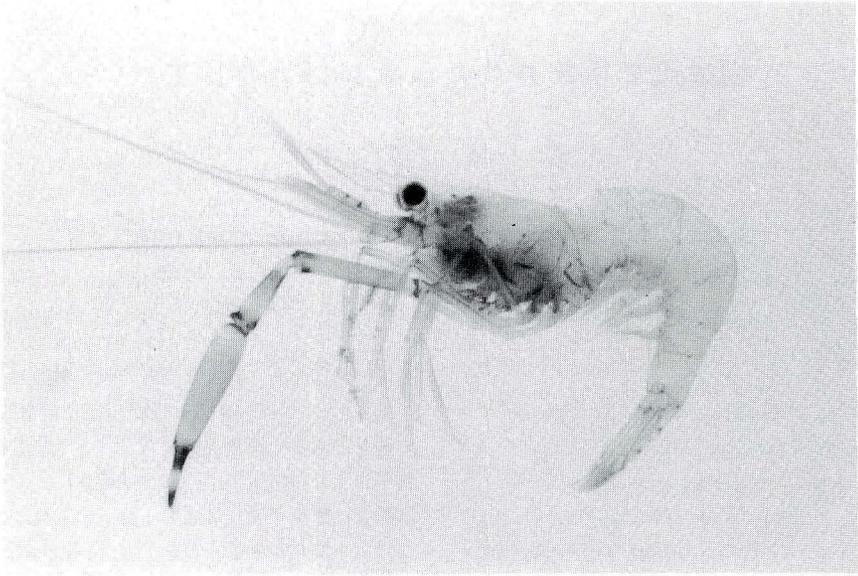


Fig. 1. シサンゴカクレエビ *Palaemonella rotumana* (BORRADAILE, 1898).

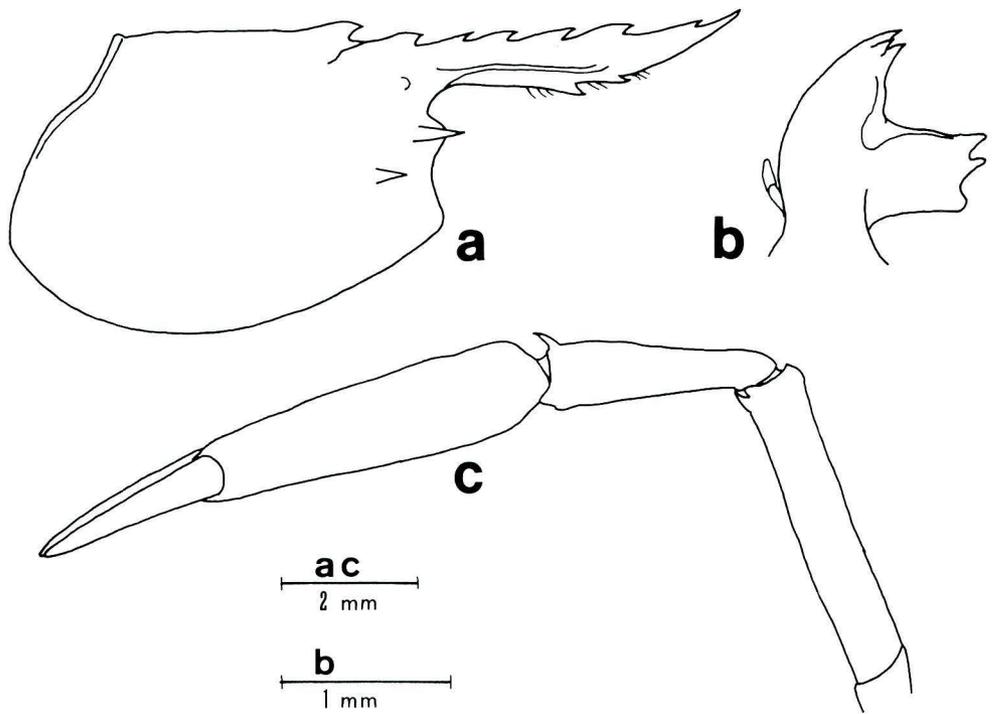


Fig. 2. シサンゴカクレエビ *Palaemonella rotumana* (BORRADAILE, 1898). a, 頭胸甲と額角; b, 大顎; c, 第2歩脚.

シサンゴカクレエビの外観は同様に伊豆半島にも分布する自由生活型カクレエビの1種、テナガカクレエビ *Periclimenes grandis* (STIMPSON, 1860) に酷似する。前者は大顎に触鬚があること、および鋭い眼上棘を欠くことで後者とは容易に識別されるが、これらの特徴は顕微鏡を用いなければ確認できないため、野外において両種を識別することは困難である。

謝 辞

標本の採集に協力して下さったサンシャイン国際水族館の八木仁志学芸員、ならびに投稿の機会を与えて下さった神奈川県立博物館の瀬能宏博士に対し、記して謝意を表する。

文 献

- BORRADAILE, L. A., 1898. A revision of the Pontoniidae. *Ann. Mag. nat. Hist., ser. 7*, 2: 376-391.
- BRUCE, A. J., 1970. Observations on the Indo-West-Pacific species of the genus *Palaemonella* DANA, 1852 (Decapoda, Pontoniinae). *Crustaceana*, 19: 273-287, pl. 1.
- BRUCE, A. J., 1975. Further observations on the Indo-West Pacific species of the genus *Palaemonella* DANA, 1852 (Decapoda Natantia, Pontoniinae). *Crustaceana*, 29: 169-185.
- CHACE, F. A. Jr. & A. J. BRUCE, 1993. The caridean shrimps (Crustacea: Decapoda) of the Albatross Philippine Expedition 1907-1910, part 6: Superfamily Palaemonoidea. *Smithson. Contrib. Zool.*, (543): i-vii + 1-152.
- 亀崎直樹・野村恵一・浜野龍夫・御前 洋, 1988. 沖縄海中生物図鑑. 第8巻. 甲殻類 (エビ・ヤドカリ). 232 pp. 新星図書出版, 沖縄.
- KEMP, S., 1922. Notes on Crustacea Decapodain the Indian Museum. XV. Pontoniinae. *Rec. Ind. Mus.*, 24: 113-288, pls. 3-9.
- 毎原泰彦・鈴木克美, 1993. 駿河湾沿岸のガンガゼカクレエビの生態. 東海大学海洋研究所研究報告, (14): 71-81.
- 奥野淳兒, 1993. 伊豆半島におけるテナガカクレエビの北限記録. 伊豆海洋公園通信, 4: 2-3.
- SUZUKI, K. & K.-I. HAYASHI, 1977. Five caridean shrimps associated with sea anemones in central Japan. *Publ. Seto Mar. Biol. Lab.*, 24: 193-208, pls. 1-2.
(日本大学農獣医学部水産学科)